

<p>②工業技術者の育成 ・学習意欲の高揚</p> <p>・資質と態度の育成</p> <p>③安全管理と危機管理</p> <p>④情報の共有</p>	<p>1 2 3 ④ 5</p> <p>1 2 3 ④ 5</p>	<p>好成績を収める事ができた。</p> <p>→「ドリームカップソーラーカーレース鈴鹿アイデアロボットコンテスト・工業高校生ものづくりコンテスト・エコノパワー in GIFU・高校生プログラミングコンテスト」等へ参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検定や資格取得へ向け学習意欲の喚起を図った。(朝学習や放課後の補習を行った。積極的に取り組む姿勢が見られ合格率の上昇) →主な資格取得「技能検定普通旋盤作業2級技能検定フライス盤作業3級・基本情報処理技術者・特定化学物質等取扱主任者・測量士補・2級土木施工管理技術検定」等 ・意識の高揚を図るために「卒業生と語る会」「保護者講話」等を実施し、望ましい職業観・勤労観を育成した。 ・「遅刻0週間・爽やか挨拶運動」等、基本的生活習慣の確立を目指した。 ・安全管理マニュアルの作成 →「安全計画・防災計画・不審者対応・地震災害対応・台風時の対応」について徹底を図った。 ・県全体の訓練日に併せ緊急連絡網の確認を図り災害時の研修を図った。 ・主任会や工業部会、保健委員会で日常のケガの発生を分析し、安全管理について確認した。 ・危機管理研修会に参加し伝達した。 ・校内に情報コーナー「<u>可児工インフォプラザ</u>」を作成、各科の最新情報を発信させた。 ・「<u>きらりコーナー</u>」では、<u>新聞記事や大会・コンテストの賞状等を掲示し、生徒の活躍を年間をとおして紹介した。</u> ・<u>研修会参加者は朝会等で報告をし、外部の情報提供に努めた。</u>
	<p>総合評価</p> <p>1 2 3 ④ 5</p>	
<p>総括 ・課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種行事・イベントに先生も生徒も意欲的に参加し、地域連携に積極的に取り組めた。学校行事では、文化祭は今年度も公開で行い多くの方々が来校された場で日頃の学習成果を発表することが出来た。又、課題研究発表会では、地元企業関係者や中学校の先生、保護者を招き一年間の成果(研究・調査・製作)等、工業高校の特色を発表した。今後もより充実させ地域から信頼される学校づくりに取り組む。 ・「資格取得・難関突破」を各学科の目標に掲げ日常的に取組んだ。早朝学習や放課後の学習、そして家庭学習を充実させた結果が「<u>ジュニアマイスター・ゴールド</u>」9名、「<u>シルバー</u>」25名の受賞に繋がった。<u>(昨年の約4倍)</u>生徒の可能性を引き出す指導を研鑽し、たくましく生きる力を身につけた工業技術者を育ていく。 	

平成19年度 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号

42

領 域	学習指導	
重 点	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を計画的に実施し、わかる授業の展開を目指して指導内容の研究と指導の工夫・改善に努める。 ・学習環境を整えると同時に、個々の生徒に即した適切な学習指導を推進する。また、意図の意識喚起につながるような学習評価のあり方研究する。 	
具体的な指導項目	評 価	現状・実践内容・成果等
<p>研修</p> <p>① 学校の課題や自らの課題を明確にし、課題解決に向けた取り組みを組織的・計画的に実践する。</p> <p>② より実質的・実践的な職員の研修を実践する。</p> <p>学習指導</p> <p>① 具体的な到達目標と評価規準を示し、指導内容の焦点化と精選化を図る。</p> <p>② 生徒の興味・関心を喚起し、達成感が得られるよう、指導方法を工夫するなど、わかる授業・魅力ある授業作りに努める。</p> <p>③ 個々の生徒の学習過程を大切にし、適切な評価方法を工夫するなど、個を生かした指導に努める。</p> <p>④ 学習する意義や目的を自覚し、意欲的に取り組むことができるよう、シラバスや授業評価を活用した全校体制による授業改善を進める。</p>	<p>1 2 3 ④ 5</p> <p>1 2 3 ④ 5</p> <p>1 2 3 4 ⑤</p> <p>1 2 3 ④ 5</p> <p>1 2 3 ④ 5</p> <p>1 2 3 4 ⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生から3年生までのすべての教科・科目において、<u>シラバスを通して、到達目標・学習計画・学習活動のねらい・評価の観点と評価方法などを具体的に生徒に示した。</u>このことは、生徒の学習意欲の喚起に結びついている。 ・知識・理解に偏らない「総合的な学力」を身に付けさせることを目標に、各教科・科目において研究を行った。特に、情報収集力やその分析力、思考力や判断力といった「学び方としての力」、プレゼンテーション能力や表現力といった「学んだものを表現する力」を各教科でどうとらえるか研修した。 ・生徒による授業評価を11月全校一斉に行った。教師自らの授業改善に向けた資料として活用するとともに、統一質問項目については集計をし、職員研修会の資料とした。 ・生徒による授業評価を参考に、「わかる授業」「興味を持てる授業」作りに取り組んだ。 ・「席チャイム」キャンペーンを昨年同様実施した。時間を守ること、授業規律の改善に向けた取り組みで、効果を上げている。<u>教師サイドの意識の変化も、生徒の取り組みにも好影響を与えている。</u> <u>さらにレベルアップをめざしたい</u>
	<p style="text-align: center;">総 合 評 価</p> <p style="text-align: center;">1 2 3 ④ 5</p>	
総 括 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度に完成させたシラバスを、今年度は4月の最初の授業で各教科担任から生徒に配付し、「評価規準」や「評価方法」について説明を行った。生徒個々の取り組みの姿勢も含め、総合的な評価であることを強調した。このことは学習意欲の向上に結びついたといえる。 ・「生徒の視点を生かした授業評価」を実施し、共通質問項目については集計を行った。この結果を受けて、授業開始の2分前に音楽を鳴らし、次の授業の準備行動を開始するという「席チャイム」今年度も実施展開した。<u>一定の良い効果を上げているため、次年度も継続する予定である。</u>(音楽の選曲には一考を要するかも、新鮮な気持ちにさせるため) ・様々な進路に対応できる教科指導が今後の課題である。(進学対応も必要ではないか) 	

平成19年度 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号	42
------	----

領 域	生徒指導	
重点	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼と愛情を基盤とした教育活動に徹し、有為な社会人として素養を培い、一人一人の生徒が自己充実感をもって学校生活を送れることができるよ指導援助に努める。 ・人権を尊重した教育活動の中で、民主的で偏見にとられない人間関係を醸成する。 	
具体的な指導項目	評 価	現状・実践内容・成果等
①「時間のけじめ指導」 遅刻0週間キャンペーン （毎月1回実施）を年間を通して実施。	1 2 3 4 ⑤	今年度も 遅刻0週間キャンペーン を実施した。全校の 遅刻数は(391人)昨年度(444人)よりも遅刻者が減少した。「遅刻0週間」から「遅刻0習慣」に移行できつつある。 学校も年間をとおして 落ち着きがあり、特に問題行動の減少や授業規律の改善、毅然とした全校集会など効果は大きいものがあった。 また、保護者からも「生活が規則正しくなった。」「自分のことは自分でやるようになってきた。」などの意見が得られた。 卒業式の 評価に具体的な評価として現れた。
②「全校集会の実施」 今年度より毎月1日に実施。	1 2 3 4 ⑤	全校生徒に 学習面・生活面など1ヶ月間の目標をもたせる意味で今年度より実施。 短いスパンでの 目標達成に役立った。 特に遅刻指導や不審者情報、県からの伝達事項、進路関係、教務関係などの指導に タイムリーであった。
③ 軽度発達障害についての理解と対応	1 2 ③ 4 5	LD（学習障害）・ADHD（多動性障害） などによる生徒の増加をふまえて学年会の議題として扱った。また、職員全体の研修会を実施し 理解と実際の対応について協議した。 支援学校の連携を、より緊密にする必要がある。
④「公私のけじめ指導」 爽やかな挨拶キャンペーン を年間を通して実施。	1 2 3 4 ⑤	毎朝校門（正門と北門）で職員、生徒会、MSリーダーズであいさつキャンペーンを展開した。今年度は、このキャンペーンが学校内で留まることのないように、学校から地域ぐるみにしていくような体制が構築できた。
総 合 評 価 1 2 3 4 ⑤		
総括・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間のけじめ指導」の一環として、全校で取り組んだ「遅刻0週間キャンペーン」は本校において大きな効果が得られるとともに、さまざまな面で相乗効果となって現れてきた。 ・課題を「遅刻0週間」→「遅刻0習慣」への移行期間と捉えた今年度であったが、卒業を迎える3年生の皆勤者の数からも成果を垣間見ることができる。今後は、生徒一人ひとりが自主的に授業に取り組み学習成果を上げられるようにさらなる授業規律の確立に努めていく。 ・教育相談においては、積極的教育相談をとおして新たな今日的課題ともいえる「軽度発達障害についての適応」や「自己教育力の向上」「自己存在感の承認」「目的意識の啓発」などの諸能力を育むよう「生徒の居場所を学校に」をスローガンに支援していく。職員力量アップの研修がさらに必要である。（一部の担当者に任せるのではなく自ら取り組めるように） 	

平成19年度 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号	42
------	----

領 域	進路指導	
重 点	自己のあり方・生き方を考え、将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路し、決定できる能力を育てる。	
具 体 的 な 指 導 項 目	評 価	現 状 ・ 実 践 内 容 ・ 成 果 等
①就職希望者に向けての援助	1 2 ③ 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・面接指導の充実（PTAの協力）。職場見学後の印象等を志望動機に反映。先輩の受験報告書を研究し試験対策を練る等の効果があり不合格者を1人止めることができた。 ・小論文指導の強化によりAO入試での合格者の増加 ・学校授業日（夏期休業後）に学校依頼の企業で全員実施ができ、職員の巡回も毎日できた。科の単位による割り振りができた。 ・生徒対象の進路ガイダンスへの保護者の参加、保護者対象の大学・専門学校の見学会、「進路だより」の発行等により情報の提供ができた。面接指導の協力が多数でした。 ・「進路だより」を全生徒・職員に配布し共有化を図った。 ・地元企業見学（3年生）、企業人の講話（1年生）、インターンシップ（2年生）等の実施により勤労観・職業観が図れた。希望者による工場見学も実施できた。 ・教務・生徒指導部との連携により、授業規律の向上、挨拶の励行、遅刻の防止等、社会人としての基本的なモラルの育成ができた。
②進学希望者に向けての援助	1 2 3 ④ 5	
③インターンシップの全員実施	1 2 3 4 ⑤	
④保護者との連携	1 2 ③ 4 5	
⑤進路情報の共有化	1 2 ③ 4 5	
⑥地域・企業との連携による、勤労観・職業観の育成	1 2 3 ④ 5	
⑦基本的な生活習慣の向上	1 2 3 ④ 5	
総 合 評 価		
1 2 3 ④ 5		
総 括 ・ 課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校も落ち着いており、<u>教務・生徒指導部との連携が図られていることが、就職・進学指導の好結果に反映した。</u>しかし、生徒一人一人が能力・適性を把握し、将来の夢や希望の実現に向けて主体的に進路選択ができるようガイダンス機能を低学年から進めていく必要を感じる。就職後、辞めないようなキャリア教育の充実にも努めていきたい。 ・県内就職を推進するため、地元の企業の事業内容等を生徒に伝えていく方法を検討していきたい。インターンシップの時期や方法については改善ができたが、なお一掃の向上を図っていく。 	

平成19年度 自己評価

岐阜県立可児工業高等学校

学校番号	42
------	----

領 域	特別活動	
重点	体験的な活動をとおして豊かな人間性と生きる力をはぐくみ、積極的に活動する実践的態度を育てる。	
具体的な指導項目	評 価	現状・実践内容・成果等
①生徒会行事	1 2 3 ④ 5	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のスローガンは「活」。活動（ボランティア）活躍（個人）活発（参加）生活（あいさつ）という柱で、球技大会・体育大会・可児工祭の3大行事を中心に活気ある学校づくりに取り組んだ。 ・生徒一人一人が積極的に参加できるよう配慮した。校外学習の事前準備、講演や講話の後はクラスで感想を発表する機会を設けた。可児工祭では帰属意識と、達成感・充実感が得られた。 ・1年生は全入部制で活動しているが、2年生からは部活動離れが見られる。運動系と比較し生産系や文化部の活躍があった。運動系部活の部員確保や指導力養成や研修に課題が残った。 ・<u>部活動の統廃合が今後の課題である。</u> ・<u>執行部・委員会等、生徒主体で企画・運営ができ情報発信もうまく行えた。</u> ・<u>「あいさつ運動」は年間をとおし、部活動の生徒と協力し行えた。</u> ・<u>可児市主催行事等に積極的に参加し、地域の方々とふれあうことや貢献をすることができた。</u> →学校周辺ゴミ拾い・可児川清掃・可児市環境フェスタに参加した。
②ホームルーム活動	1 2 ③ 4 5	
③部活動	1 2 ③ 4 5	
④生徒会活動 ボランティア活動	1 2 3 4 ⑤	
総合評価		
1 2 3 ④ 5		
総括・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が、主体的・自主的に責任をもって行動できる機会を多くし、地域社会の一員として活動できる生徒を育てる。生徒が主役となり説明・発表・進行を行うことで自信をつけて、学習意欲を高めることができた。（集会時の賞状伝達、委員会活動、MSリーダーズ発表等） ・<u>地域から協力依頼やボランティアの要請があった場合など、生徒が積極的に拘わるようになってきた。</u>そしてMSリーダーを初めとした自主的活動が活発に展開されている。今後も体験的な活動をとおして、豊かな人間性と生きる力をはぐくみ態度の育成に努める。 ・可児市教育委員会よりMSの活動に対して表彰される。（生徒の励みとなる） 	